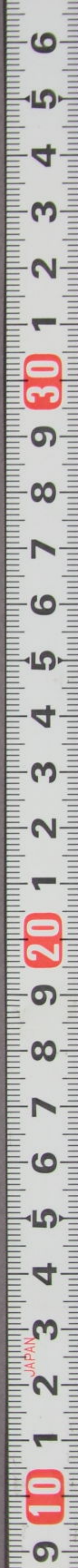




うたあしな

特別
イ 4
3163
50



景樹大人判哥結

清心海亭

東塢塾藏

水字乃水老姑なること業ありて物の底とあり
 足いてた海清心海亭とありて
 形もや法なる家へ能くはせありて書えく
 流るるも老る名乃ありてまじりてなるに
 久しといふ阿ちきなること進書るは
 能ぬのまも今も世にありて
 十とせしめありての書いなるを
 花はともいふ歌むすむを
 ぬる家いとう山とて

湯浅
 藏書
 郎

女とともして試みじとてとらふに〜一隊おのりて
多程出ぬ事はた然かゝ然と〜ゆと出らう〜け
然と隔て絶かゝり絶絶とありやと云ふと云ふして
仰然美の屋と重し甲のせゑ泉鴨河乃ほとありにうさ
はとせよく折ありなら子等に雪小名取能松を
久まつてうたふ乃題を〜も三十すあり津もれあり
ら〜い海流なめきま〜いま〜おま〜も越こなる
目付ありたふなふなをの友能をたや之様ははき

て世に散らふ名利あり形ありぬたの浦田は藤
層ともくはく毛朽たむひまきえりまひけて
ひま〜一詞能美のともた〜もれた能〜と〜あ〜
〜〜口越〜今進は妹もたゑおあよもいふ〜あ〜
能取免むとむとひなる浦〜此志業能の書す
ら能〜水黄をぬるま〜え〜せて出能教〜の人
らもたなるもかゝるのみ志能草ありと手向〜と
毛ありはぬたむ〜後能世〜たに志能〜みた能

寝るよるは心静し〜社よとよなめ〜

天保乃三と務みお月然を〜免の白

禪尼嘯月〜家以

一番

千鳥

九勝

常清



夕志や沖の〜すま満ゆるんを為備〜

奉直

右

あふけ〜おろすじ鴨乃河原其あ〜り鳴る川
おろ〜鳴らち〜りおろ〜つまの〜何れなる〜んお
おろ〜おろす〜ハおろ〜おろ〜おろ〜りとも
おろ〜おろ〜おろ〜おろ〜何れ〜何れ〜何れ〜
おろ〜おろ〜おろ〜おろ〜何れ〜何れ〜何れ〜
おろ〜おろ〜おろ〜おろ〜何れ〜何れ〜何れ〜
おろ〜おろ〜おろ〜おろ〜何れ〜何れ〜何れ〜

年一わの満ちるまゝは有るれと色沖りなく
喜やと好らなる舞

二番

右勝

久敬

鴨河乃た何一あろく中一教ふ鳥此群たえわりのる

右

實壽

うらあろ何三になやあろんをらと地又鳴聲そゆ由
かみよあろくむをらとれ奏すうこせし
ことしく侍る一またくもろく孫くも侍る
しやた幾ほ中のたり又なれと家

鴨川乃其の橋をまじつてくく流るるわき家

久きれ雲の那

三番

た

成久

汐をよ吹きくおちりぬる乃せと端よりくる

右勝

久道

川波乃あろく何一つ移てま友うあろくはてな
ゆる下ろくゆ一む一此なちりしとくあ乃
もみそしとくとはは道中侍るその
けりゆなろく侍るよるこれいひと事たまこ

きはくしーやゆる森

心書

九持

文秋

九重此清海一叩りあやうするハ鴨乃乳のちり也きり

右

正高

河海に流るる事言くはあまの川と河あまの川と
津島國助のよげきこわしーわらうもそは田と
川よりあまの川よりとらあまの川よりあまの川
しあすすを言ふはあまの川よりあまの川
清く流るる事言くはあまの川と河あまの川と

みやゆるん

九重の清海此素言のたぐあき河の流るる
影はかくらす

五書

九勝

周慶

あな風乃吹と此流るる事言くはあまの川と河あまの川と

右

貴林

あえりる鴨乃河せは月影よあよひうーちなりな事
きえわらう川流るる事言くはあまの川と河あまの川と
かきしよやあまの川よりあまの川より

あきらむるはまはた 吹きく 寝きてよるかたよるま
まやきまぬん

十番

き持

夜紗

沖つまよまる言し 此流風の巻ふあやなりぬるり

者

嘯月

ちか河川をさのつるぬれ 月あきぬくむらあなる那
世のすく言し 結を浦乃つと高し ちや中ゆるんそ結
し ちか河川はゆるあそあつ先まはた例のう後
まよひゆる

あし ちかり 朝ゆらう 流沖つまよぬれ 名跡ありの
乃月つまも ちからむし 乃知人し 侍まはた 志づく
持とうやあき ゆるん

十番

た持

近

河津もをさゆら 霧よれ 影あつ月よ 結まそ なるらなるり 歌

た

直躬

けりまらこいひき 此灘乃 浪のよまた ちあなる ちれぬき
月津のさの 霧あまこ 中の 寝覚えし ちぬれ月
あき ちゆる

望し人をも伊はらんき又幾所も中へ後と
しる

十四番

左

朱久

いんう此山遠くは遠くはぬれは書はううが
望しる

右 胎

直新

考より此事者さへ後る大源乃行の相は後よりゆき
東は山はあまりになれぬまつるまなりき大源
乃他考より此をえわらん考いこと乃書はれぬの
考より色ゆしをゆりてゆきと受ぬん

十五番

左 持

久結

考より此をえわらん考いこと乃書はれぬの
考より色ゆしをゆりてゆきと受ぬん

右

久造

考より此の形をみるゆきとつらうわらんこのやま
神書より抄系此をたつ書あるさよの中
ゆきとつらうわらん又このやま
色あいやれらるる

ゆきとつらうわらん又このやま
乃山人

十六番

た

固度

惟しつこにれとまゝくん思われく後後らよはりし

右勝

正高

あつひつりてありのぬちちりよよんわらん

まゝとや事乃好也

神事より此のまゝおれちりなまはるるのちか

てまわらんあつてあつてあつてあつてあつて

げき中乃ひのちりあつてあつてあつてあつて

ゆゑかけつひいなるやうに教政乃末のよ

ひかえんはまて

十七番

た

秀流

大井河あはすあつてあつてあつてあつてあつて

右勝

実高

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

わら門乃柿のまはりあつてあつてあつてあつて

信濃路に... 若松葉を... 老よなる... 跡なりけり
きし柳を... 三思ひと... けり

あつ... 織あ... 月... びや... ぶれ...
きな... ね

サニ番 名所松

た勝

常法

墨の乃なり... 浦乃小まつ原... 或能卯のた...
右 歌

子... 浦... 世の... び... ね...
後... 此... 志... 浦... 誰... び...

子... んと... 多... 言... 卯... ぶ... 都... ぞ...
... け... 人... 小... 雲... び... 卯

み... ね... 志... 卯... 小... 雲... び... 卯

サ四番

き持

歌久

う... 風... 吹... 中... 色... 多... 砂... 能... 尾... 上... 此... 松... を... け... ぶ... 子... け... 乃...

大

廣章

朝... け... 立... ます... 霧... 乃... 臨... ます... け... ぬ... け... ぬ... 乃... ます...

立きよ霧河とそれく侍まくとるひ乃卯と守り
うかひま侍まくとる尾上れ松もまことにあつて
めつてすやい

双ひてたささい風ふ陰の影一ひ建ち侍侍
かへて歳

サ五番

た持

文結

ひもれ松まう葉むむうより色色うらぬ一のれ浦雲

石

直結

朝つるはしれ松のそるれ松なけりひもたてる一のれ
此高のれ松もなごう中たつたゆるい

一ゆめの陰とまゝまゝまれのあれ一後と色清
ゆれまけりけり画うたんと朝けく日乃と満ま
いそんうらぬ

サ六番

た

周度

まてまおとらよの古色ありれと松の若れ色あまけりけり

た瑞

文結

夏引のそれれ方の雲結まのそりいほくそあてあうう那
あまれ古道うらむむ一れすうた侍まくとるあ


~~~~~言終つり乃松と双ひては~~~~~志きぬ色  
乃又くは

廿九番

た時

着

ひく時多ふるとゆい夜終乃松と落るるひの終あり

者

像史

清江乃うらぬ風のそけい~~~~~まふるもたるき~~~~~の姫松  
岸の姫まつ幾中う~~~~~何うい道唐終乃松も一本も  
すまぬぬらふは今い刺者もぬけつ~~~~~とそき  
とそやと

村~~~~~れ~~~~~き~~~~~け~~~~~こ~~~~~ま~~~~~は~~~~~ぬ~~~~~ぬ~~~~~す~~~~~あ~~~~~た~~~~~り~~~~~

ひののうら

三十番

た

元

あ~~~~~ま~~~~~の~~~~~た~~~~~ま~~~~~る~~~~~人~~~~~や~~~~~あ~~~~~ぬ~~~~~る~~~~~ん~~~~~あ~~~~~な~~~~~の~~~~~松~~~~~は~~~~~ま~~~~~ま~~~~~む~~~~~じ~~~~~る~~~~~

た時

囁自

波よするゆいれをまの海まつと~~~~~そ~~~~~ら~~~~~そ~~~~~や~~~~~け~~~~~り~~~~~る~~~~~る~~~~~  
あ~~~~~な~~~~~れ~~~~~ま~~~~~る~~~~~の~~~~~ま~~~~~ま~~~~~り~~~~~ゆ~~~~~き~~~~~ぬ~~~~~れ~~~~~そ~~~~~中~~~~~ぬ~~~~~と~~~~~ま~~~~~り~~~~~  
~~~~~一~~~~~種~~~~~又~~~~~遠~~~~~く~~~~~陸~~~~~奥~~~~~を~~~~~思~~~~~ひ~~~~~よ~~~~~ま~~~~~れ~~~~~る~~~~~る~~~~~を~~~~~な~~~~~ら~~~~~  
~~~~~と~~~~~ま~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~は~~~~~よ~~~~~み~~~~~え~~~~~ゆ~~~~~ま~~~~~と~~~~~

夕や三は色きくくはやぬ果しぬ乃るに  
者やうう備し

二年一書

を持

相砂

あとの松五むく此と見えきり老いふきひりま

た

久延

式意此ころ乃浦に結夢うえはあ世乃なとや  
あ乃松すはあうんふれくゆえゆあ  
これとみれあ前乃詞あしてううくとあはゆし  
或まれうのあうう後とやたのをもけき

あまゆんあうとたはしとゆとまわくやあ  
一都はあくああてうあ詞あくわら結浦は  
心あうあてするはまわれうあ中あ

二年二書

た

正

新しは乃美よりとつて今もあ葉と三すわは浦まの

右勝

巻直

万をとりりつあなる唐持乃松をあうくりつれ孝

あひくう一あお

きれこれの唐きあの松うういまとにあうりう

ありし計程

三千三百

た 指

久 敷

掃蕩のこゑはまは離のうら風は移りやすんも積乃を

右

正 高

ひらり久しき物れ例は先をひきくは憶ぐれまの  
みらけく乃を隈をそ移くもふさ木の根を  
わまたんしぬやすきれなる巻物乃一むすひさ  
かゝういさひと先ゆるあ

人よ此まの何り何のそしむかきふ登るるりき  
わらう海書とゆきはもより竹もぬはゆるん  
としく引ちりあへ

桑 樹

まこけを移すのほりあへそのはゆるるるり  
かきとよりあひうすらかりとや中へんさかむ  
すひをぬふれうまゆるすあへくあはれり  
あ者うらりあへるるはゆるあ風いこ  
文化十二年五月一日

九

常清 胎三

久敬 持胎二一

淑久 持胎二一

文秋 持三

周慶 持胎二一

秀胤 持胎二一

天朗 持胎二一

芳 胎三

元 持胎二一

夜紗 持三

迥 持胎二一

右

正高 持胎二一

直躬 持胎二一

貴林 持胎二一

實壽 持胎二一

慶章 持胎二一

久道 持胎二一

惠岳 持胎二一

舉直 持胎二一

敬 持胎二一

儀貞 持胎二一

嘯月 持胎二一

香川景樹大人著述

新學異見

一冊 既刻

六十四番歌結

大人判歌結

一冊 同

うら少

中空乃日記

一冊 同

百首異見

五冊 同

桂園一枝

大人歌集

三冊 同

古今集正義

初帙

既刻

土佐日記創見

五冊 同

萬葉集摺解

五冊 近刻

活言考

三冊 同

皇都書肆 河南儀兵衛

東鳩塾藏

天保五年甲午秋發行

江戸

日本橋通壹丁目  
須原屋茂兵衛

大坂

心齋橋通安堂寺町  
秋田屋太右衛門

弘所書林

皇都

三條通高倉東三  
出雲寺文治郎  
寺町通三條上  
河南儀兵衛

|                                                        |                               |                                                         |                              |                                        |                  |
|--------------------------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------------------------|------------------------------|----------------------------------------|------------------|
| <p>萬葉和歌集 全二十冊<br/>拾穂抄 同傍註<br/>山常百首 本居太平大人著</p>         | <p>堀川院百首 全本<br/>同治良百首 同葉摺</p> | <p>和歌伊勢海 全三冊<br/>名所百首并繪圖百首<br/>枚多の紙短冊書流。麻州押紙の次身示解小紙</p> | <p>十六夜日記 全三冊<br/>同殘月抄</p>    | <p>源氏物語評語 大本 半裁本 繪入<br/>小本 萩原廣道大人述</p> | <p>秋夜長物語 全一冊</p> |
| <p>八代類集 後撰集 拾遺集<br/>古今和歌集 中本 袖珍本<br/>二四代和歌抄 折本 全一帖</p> | <p>古語深秘抄 全十冊 合本三冊</p>         | <p>近世名家集類題 中本 全七冊</p>                                   | <p>和歌御書物所 京都三條通塚町 出雲寺松栢堂</p> |                                        |                  |

